

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：6

企画名
フラードーム ～下見学生街まちづくり活動での活用を目的とした仮設空間の構築と実践～
実施日
【制作】平成25年8月31日～平成25年11月1日 【イベント】9月29日 【大学祭展示】11月2日
実施場所
【制作】工学部芸術制作室 【イベント】アパマンショップ広島大学前店 【大学祭展示】ぶどう池周辺
企画代表者の氏名、所属
氏名：内田 和音 所属：工学部第四類建築学課程
構成員の氏名
庭田尚一郎 貴志萬平 成富邑斗 山本健太郎 伊勢本尚也 橋爪杉太 岡勇介 小林光佑 甲斐寛之 原田慎平 井上勇真 宮田真
指導的立場の教員氏名
田中 貴宏 准教授
企画の目的及び内容
本企画は、下見学生街のまちづくり活動の一環として、学生と地域住民との交流イベントを開催することを目的に、仮設の建築空間（フラードーム）の制作を行うものである。 9月末に、下見の不動産会社の方と協力し、下見学生街で学生と地域が交流できるイベントを実施した。 大学祭では、和をイメージした展示空間を制作した。夕方からは、ろうそくライトアップも実施した。ドームの材料には、地産地消をコンセプトに、広島県竹原市の未利用の竹を使用した。
来場者数
【イベント】121人 【大学祭展示】53人
主催・後援団体（外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模）
【イベント】（共催）（株）プランニングサプライ、たのしーの下見会、（有）サンコーオート
活動の内容（準備、広報活動、当日の様子等）
【準備期間】 ■設計段階では、ドームの形状・部材の検討・図面の作成を行った。ドームに用いる材料を合板から竹に変更した。当初計画案とは異なるドーム形状・構成部材を用いた。 ■8月末には、竹の調達のため、竹原市の方の許可を得て、市の管理する竹林から竹の伐採を行った。計20本程度の竹を伐採。未利用資源の活用に貢献した。 ■9月からは竹ドームの制作を開始。竹の加工、接合部の制作、布の加工（屋根部材として）を行った。
【広報活動】 ■「広島大学まちづくりサークル」のFACEBOOKを利用し、活動初期段階から活動の様子等を多くの人に情報発信していった。9月中旬より、ポスターの制作・配布を行った。下見学生街でのイベントを実施する際には学生情報サイト「もみじ」への掲載を依頼した。
【イベント】 ■9月29日に、下見学生街において不動産会社の方と協力し、下見学生街で学生と地域が交流できるイベントを実施。「竹に願いを」と題して「下見学生街がこんな街になってほしいなあ」という願い事を短冊に書いてもらい、竹ドームに装飾をしてもらった。
【大学祭展示】 ■これまでの下見学生街でのまちづくり活動を知ってもらうことを目的に、竹ドームの展示と活動パネルの展示を行った。9月のイベントとは趣を変え、和をイメージした設えにした。夕方からは、竹によるろうそくライトアップを実施した。

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

アンケートの結果（来場者にアンケートを実施した場合のみ）

アンケートは実施せず。

成果・課題

- 本企画は今年度初実施の企画であった。また研究室の枠を超えて、建築学の学生が学年を超えて実施したという点からも初めての試みであった。活動を進めていく上で、多くの変更点が見られたが、結果として良いものが実施できたと考えている。
- イベントの実施では、下見の不動産会社の方の協力を得ることができた。
- 当初の計画では、ドームに用いる材料はホームセンターで容易に購入できる木材を考えていたが、「まちづくり」の観点から、地域のものを使ってドームを作るべきと考え、竹原市の竹を使用するに至った。ドームの形状及び構成する部材にも大きな変更を加えることとなってしまった。
- ドームの形状と構成する部材の変更があったこと及び実施したイベント内容が当初の計画よりも大きく変更したため、計上した必要経費とは異なるものを使用することとなってしまった。今後の課題としていきたい。
- 制作の過程で多方面の方の協力を頂くことができ、無事にドームを完成することができた。本企画を通して生まれた、地域の方との繋がりを、今後のまちづくり活動の場においても大事にしていきたい。

実施風景（写真）

